

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名		佐賀県立佐賀工業高等学校 定時制	
1 前年度 評価結果の概要(簡潔に)	・「学びの時間」の取組において、アンケート結果により、生徒の学習に対しての意識の向上に繋がっていることが分かった。 ・「いじめ問題への対応」について、成長過程でいじめは起こるものという認識のもと、いじめの未然防止、早期発見、早期指導に努める。 ・健康について考えながら食事をとることの重要性を伝えることに課題が残った。食事の提供についての工夫を行い食べやすい雰囲気を作り、喫食率の向上に繋がった。 ・学校紹介パンフレットの工夫、高校説明会、中学校訪問等を通じて、定時制教育の魅力発信に取り組み、生徒募集に繋げることができた。		
2 SAGAスクール・ミッション	中部地区唯一の工業科を持つ定時制高校として、地域及び日本の産業界を牽引し、高い倫理観をもって、人々が暮らしやすい社会を創造できる工業技術者を育成する。		
3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー 1 ものづくりに積極的に挑む態度、地域・社会に貢献する技能・技術を育成します。 2 基本的な生活習慣、社会で通用する基礎学力、気力・体力を育成します。 3 社会的・職業的な自立に向けた勤労観や職業観を育成します。 4 多様性を受け入れ、人権感覚を持った豊かな心を育成します。	カリキュラム・ポリシー 1 少人数でのきめ細やかな指導により、一人一人を尊重し、安心して取り組める授業を実施します。 2 基礎事項・基礎学力の定着と家庭学習の習慣化に取り組めます。 3 アルバイトや社会活動を推奨し、学校外での活動を通じ、社会人としての基礎力の養成に努めます。	グラデュエーション・ポリシー 1 仕事と学業の両立を目指し、高校を卒業したいという強い気持ちを持つ生徒 2 就職または進学を目標とし、意欲的に学習に取り組む生徒 3 ものづくりに興味・関心を持ち、資格取得に意欲的に取り組む生徒 4 まわりの人と力を合わせて部活動・学校行事等に取り組む協調性のある生徒
4 本年度の重点目標	～“ものづくり”から“者(ひと)づくり”そして“未来(あす)づくり”～ a 新たな課題への着実な対応 b 深い生徒理解に基づく指導 c 規律ある高校生活の定着 d ものづくり教育の推進 e 開かれた学校づくりの推進		
5 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	
●学力の向上	○わかる授業の実践と学習意欲の向上	○学びの基礎診断を活用し、国語・数学の平均点を50点以上にする。	・生徒個々の学力を把握するとともに、学力に応じた基礎的な内容や一般常識学習を取り入れる。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○相手を思いやり、命の尊さを再認識したと回答した生徒85%以上 ○人権感覚を持った豊かな心を育成する。 ○学校生活アンケート等を2か月に一度実施し、「未然防止」「早期発見」「早期対応」に向けた体制の推進する。 ○いじめを「しない」「させない」「ゆるさない」心を育成する教育を実践する。 ○(学校独自成果指標・記載例を参考にしてください。)	・エイズ予防講話、性に関する指導講話を実施する。 ・ホームルーム活動において人権教育、情報モラル教育を実施する。 ・アンケート調査ならびに担任による面談等を実施する。 ・全職員による登校指導等を行い、未然防止・早期発見につなげる。 ・全職員によるいじめの認知と認知に関わる情報の共有を図る。 ・ホームルーム活動や集会等で、心を育成する教育を実践する。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」と回答した生徒80%以上 ○給食喫食率80%以上を目指す。 ○感染症、食中毒等を防ぐための自己管理能力を育成し、「手洗いは大切である」と答える生徒100%を目指す。	・食育講話を実施。食に対する重要性を説き、喫食を促す。 ・給食アンケートを2回実施する。 ・グリッターバグを使った手洗い指導を実施(1年生対象)する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・学校行事の精選に努めるとともに、校内の諸会議を勤務時間内設定し、業務の適正化を図り、時間外勤務の削減を図る。 ・年次休暇の積極的取得を推奨し、教職員の心身の健康増進に努める。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の意識の向上	○生徒それぞれの個性を受け入れ、社会に出る前の準備期間として、支援・見守りを行う。	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有を行う。 ・月1回の職員会議で、教員が情報を提供し、全体で組織的に対応する。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	
○進路実現	○進路実現 生徒が希望する進路を実現させる	○就職内定率、進学内定率ともに100%を目指す ○進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成と定着。年度末生徒アンケートで「身についた」生徒70%以上を目指す	・生徒の能力・適性・希望に合った進路先の情報提供と適切な指導助言に努める。 ・在学中の就業率向上と職業講話などを通して職業観・勤労観の育成と定着を図る。
★ものづくり教育の推進	★ものづくりに対する興味関心の醸成 ○ジュニアマイスター取得者の増加	★自分の学校を中学校に勤めることができる生徒の割合を80%以上、教職員の割合を85%以上とする。 ○学習に対し、主体的に取り組んだと思う生徒80%以上を目指す。 ○各種資格取得について、次の目標を達成する。 ・計算技術検定合格率90%以上 ・パソコン利用技術検定合格率75%以上 ・危険物取扱者試験合格率40%以上 ・第2種電気工事士合格率100%以上	・個々の能力に応じた、きめ細やかな指導により、生徒の個性・能力・特技の伸長を図る。 ・始業前、放課後の補習を実施し、資格取得に対するチャレンジマインドの向上を図る。 ・学習の到達度に応じた個別指導を実施する。
○開かれた学校づくりの推進	○魅力ある情報の発信 ○志願者、保護者の学校理解の推進	○年度末アンケートで学校の理解ができた保護者70%以上を目指す。	・保護者後援会で学校行事等の情報を発信し、学校行事等の情報を学校ホームページでも発信していることを伝える。 ・高校進学説明会等に積極的に参加し定時制高校の魅力を発信する。